

## 2017年度(平成29年度)事業計画 (案)

我が国を取り巻く国際情勢は、アメリカ・トランプ政権の誕生により、これまでの既成概念では測り切れない流動的環境にあり、先行きの見通しが不透明で混迷しています。

一方、国内においては超高齢化が進み、少子化による人口減少に歯止めが利かず、将来不安が増しています。

このような状況の下、近頃では介護問題の一つとして、人生の終末期における悲劇的な出来事が報道されています。国における医療・介護費の増大問題以上に、介護する個人にとっては自己の尊厳に係わる重大な問題になりつつあります。

こうしたことから平均寿命の延伸を図りつつ健康寿命の延伸を図り、介護期間を少しでも短縮する社会の実現が喫緊の課題となっています。その延伸策の一つとして生涯スポーツが注目され、その果たす役割は以前にも増して重要となっています。

本連合においても会員の競技力の向上を図りつつ、生涯スポーツとしてマスターズ陸上の一層の進展を図り、国民の健康増進に寄与することが、重要な役割となります。

そのため本連合は、以下に掲げる各事業に取り組みます。

### 1 生涯スポーツ社会の実現

本連合の会員の競技力向上を図るほか、「だれでも、いつでも、どこでも、いつまでも」の生涯スポーツのスローガンの実現を目指し、次の事業を行い社会的貢献に努めます。

#### (1) 全国大会の開催

全日本マスターズ陸上競技選手権大会（10月 和歌山）

都道府県対抗・全日本マスターズ駅伝競走大会（11月 滋賀）

全日本マスターズ混成陸上競技選手権大会（11月 神奈川）

全日本マスターズ競歩・マラソン選手権大会（10月 岩手）

全日本マスターズ陸上五種競技選手権大会（4月 神奈川）

#### (2) 国際大会への参加、参画

アジアマスターズ陸上競技選手権大会への選手団派遣（9月 中国ルガオ）

2021年ワールドマスターズゲームズへの参画

2018年国際ゴールドマスターズへの参画

#### (3) 指導者の養成および活用

①陸上教室の開催 各ブロック 年1回

②インターバル速歩講習会の開催 年 1か所

③三世代交流陸上教室の開催 年 1か所

### 2 広報、マーケティング活動の充実

本連合が主催する各大会やイベント等を利用して広報活動の展開やマーケティング活動を促進し、会員の獲得、本連合のイメージアップを図ります。

- (1) マスターズ大使の活用
- (2) 広告代理店と連携した効果的な広報活動
- (3) ホームページを更新し、広報の充実
- (4) マネジメント機能の強化
- (5) 会報・記録集の発行
- (6) 栄章、表彰の充実

### 3 国際的な活動

先進諸国においては、元気な高齢者が増加しており、世界的にも生涯スポーツの重要性が高まっています。本連合では国際大会および国際会議に参加し、マスターズ陸上に関する国際情報の収集と交流を積極的に推進します。

- (1) 国際大会への選手団派遣
- (2) 世界記録の申請事務
- (3) WMA, AMA等国際機関の会議への役員派遣

### 4 組織、財政基盤の確立

国や地方公共団体からの助成金、企業からの協賛金の獲得も厳しいものがあり、平成28年度に会費を値上げしたものの本連合の財政基盤はなお脆弱さからは脱却したとは言えません。事業を円滑に運営するため、引き続き財源の確保に努める必要があります。また、2005年の社団法人設立の認可に際し、当時の所管官庁である文部科学省の指導に基づく日本陸連へ全会員の登録を推進していきます。

- (1) 公益社団法人としての活動
  - ①協賛企業の発掘活動の促進
  - ②公益目的事業の充実
  - ③日本陸連への全員登録の推進
  - ④調査、研究の支援、協力
    - ドーピング問題の対応の調査研究
- (2) 新規会員の獲得の促進
  - ①全日本ロードレース大会の拡大化
  - ②公益目的事業の参加者募集PRの充実
- (3) 事務局体制の充実と人材の発掘、育成
- (4) 各連盟の活性化のため地域ブロック連盟との連携の強化
- (5) 各専門委員会の強化